

## 令和7年度 第3回 曳馬小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月6日（金） 午後2時00分から午後3時50分まで
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 飯尾忠弘、荒巻太枝子、中村佐知枝、戸田京子、鈴木香代、山田佳乃
- 4 欠席委員 川井啓介
- 5 学 校 藤井隆志（校長）、古橋孝文（教頭）、鈴木正委（CS担当職員）  
内堀邦子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 清水 悠（学校・地域連携課）
- 7 傍聴者 3人
- 8 会議録作成者 内堀邦子（CSディレクター）
- 9 議長選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ飯尾会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

### 10 協議事項

- (1) 「学校関係者評価」について
- (2) 「来年度の学校運営の基本方針」について
- (3) 「学校運営協議会自己評価」について
- (4) 「学校支援活動」について

### 11 会議記録

司会の古橋教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 学校関係者評価について（鈴木主幹教諭・藤井校長）

議長の指示により、鈴木主幹教諭から資料に基づき、児童・保護者・教職員による学校関係者評価アンケートの結果分析と改善方針について説明があった。

- 児童・教職員の評価はほぼ全項目で向上し、学校運営の安定がうかがえる。
- 保護者評価が低下しているが、今年度から「分からない（評価不能）」の選択肢を増やした影響と考えられる。
- 生活項目では昨年度課題であった「挨拶・言葉遣い」で改善傾向が見られる。課題は「学習面」であり、特にタブレット端末の活用状況が保護者に伝わりきっていない点が挙げられる。

委員から以下の発言があった。

- タブレット端末はどの程度、家庭に持ち帰っているのか。（荒巻委員）
- タブレット端末を家庭に持ち帰っているが、親は具体的に何を学習しているのか確認していない。（山田委員）
- アンケート結果の数字に表われていない狭間にいる子供を救い上げていくことも大事。子供と親のコミュニケーションが不足しがちな現状を地域やPTAで認識し、改善していく必要がある。（戸田委員）
- 高学年は持ち帰りの頻度は高い。中学年は週末のみ持ち帰り、低学年は希望者が長期休みに持ち帰る程度である。タブレットでの課題は子供だけで完結することが多く、親が関わる場面が少ないのが実態である。（鈴木主幹教諭）
- 今年度はブログ等で学校活動の発信は強化しているが、アクセス数は全世帯の1/3

- 程度。今後効果的な周知が必要。学校経営方針もPTAへ発信していく。(藤井校長)
- 子供の安全を守る視点からも地域と学校の情報共有をさらに密にしたい。(中村委員)

協議の結果、学校経営評価について全員異議無く承認した。

(2) 「来年度(令和8年度)の学校運営の基本方針」について(藤井校長)

藤井校長より、資料に基づき令和8年度の学校経営方針(案)、ランドデザイン(案)とキーワード「のびやか」についての説明があった。

キーワードを「のびやか」とし、「自分らしく」「互いを認め合う」「やってみたい思い」「自ら動く」姿を目指す。非認知能力(自信、思いやり)を土台とし、特別活動での主体性を教科学習につなげていく。「やりたいこと(やってみたいこと)」に挑戦するための3つの約束(好きなことをする、自分からする、人のためになることをする)を掲げ、令和7年度からの方針は継続していく。

委員から以下の発言があった。

- 令和8年度は今年度のものとの融合した経営方針。(飯尾会長)
- 非認知能力(主体性)を育てるには家庭との連携が不可欠。親の意識転換も促す必要がある。そこをどのように伝えていくか。(荒巻委員)
- 今の子供たちは自信をもちにくい傾向がある。大人が肯定的に関わり、成功体験を積み重ねることが重要。AIは否定をしないことから、チャットGPT等に依存しすぎてしまうことが社会問題になっている。幼児期から主体性を持たせ、自己肯定感を育てていく必要がある。(飯尾会長)
- 昨年度に大幅な経営方針の変更があり、表現が抽象的だと感じたが、今回の説明で理解できた。(戸田委員)
- 家庭での役割を教えて欲しい。(山田委員)
- 学校経営方針(案)を4月までにさらに磨き上げて完成させ、次回説明して欲しい。(飯尾会長)

協議の結果、来年度の学校経営方針について全員異議無く承認した。

「いじめ防止基本方針」の改定について(藤井校長)

藤井校長より、資料に基づき令和7年度からの改定箇所について説明があった。

- トラブル発生時、原則として子供が帰宅する前に保護者へ連絡することを明記する。
- 子供が嫌な気持ちを引きずらず、スッキリした状態で登下校できるよう組織的に対応する。
- 本校独自のフローチャートを作成し、教職員間の対応を具体化する。
- 軽微ないじめを学校に相談できるようにしている。学年が上がるにつれて大きくなりがちないじめを初期に対応している。

(3) 学校運営協議会自己評価について(飯尾会長)

飯尾会長より資料に基づき学校運営協議会自己評価について説明があった。

項目1「学校運営の基本方針について熟議すること」についての自己評価は概ね高評価であった。

項目2「学校支援活動について熟議を進めることができたか」についての自己評価は、8月の運営委員会が中止になり、支援活動についての熟議がアンケート後になってしま

ったため、評価が低くなった。

項目3「協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか」については、委員から以下の質問があった。

- 誰がどのように情報発信することを目指すのか教育総務課から教えてほしい。  
(戸田委員)
  - CS日より、PTAへの発信、委員の身近な所への発信を想定している。  
(教育総務課)
  - 目標値が分かっていなかったため、厳しい評価をした傾向がみられた。(飯尾会長)
- 項目4「今年度の評価を踏まえた来年度の目標」については、出た意見を基に定めた来年度の目標について確認をした。

協議の結果、学校運営協議会自己評価について全員異議無く承認した。

(4)「令和8年度 学校支援活動(ボランティア)」について(鈴木主幹教諭)

鈴木主幹教諭より、次年度のボランティア実施計画と募集案について以下の説明があった。

- 学校のニーズに基づいた地域連携を大前提とする。
- 学習支援(家庭科の調理・ミシン、算数、書写)、図書室整備、環境整備、クラブ活動等の支援を想定。
- 3月にボランティア登録の案内を配布・回覧し、新年度からのスムーズな活動開始を目指す。

委員から以下の発言があった。

- ボランティアの回数や人数について知りたい。(飯尾会長)
- 内容、回数、人数は別紙のとおり。クラブ活動の支援は、地域の方の特技を活かしやすい。募集の際に具体的な内容を提示できるよう調整したい。(鈴木主幹教諭)

協議の結果、令和8年度 学校支援活動(ボランティア)について全員異議無く承認した。

その他報告事項等

- 夢育やらまいか事業の予算について。地域連携を目的とした曳馬小学校地域連携表の作成、ボランティアへの飲料用お茶代等、適正に予算を執行している旨の報告があった。監査は2月末に行われる。
- CS委員研修会(オンライン)の案内について。2月25日(水)14:00～曳馬小にて実施。
- 次回会議は、5月8日(金)10:20～11:30。その前に1年生を迎える会の参観を行う旨の報告があった。
- 次年度(令和8年度)の会議予定:
  - 第1回: 5月8日(金)午前(9時20分から1年生を迎える会の参観含む)
  - 第2回: 7月24日(金)午後
  - 第3回: 10月30日(金)午後
  - 第4回: 2月5日(金)午後